

衆院・安保特別委

各党とも慎重人選

安全保障関連法案を審議する衆院平和安全法制特別委員会（委員数45人）が22日、初めて開かれ、委員長に自民党の浜田靖一・元防衛相が選ばれた。与党筆頭理事は自民党の江渡聡徳・前防衛相、野党筆頭理事は、民主党の長妻昭代表代行が務める。後半国会で最も注目を集める委員会だけに、各党とも慎重に委員を人選したことがうかがえる。

江渡、長妻両氏と維新の党理事の下地幹郎・元郵政改革相は22日、今後の審議日程などを協議した。安保関連法案は、26日の衆院本



◇…特別委員長…◇
【平和安全法制】浜田靖一氏（はまた・やすかず）千葉12区。防衛相、党国対委員長。専修大。

当選8回。59歳。（自民、無派閥）

初開催 委員長に浜田氏

会議で趣旨説明などが行われた後、特別委で本格審議に入る見通し。民主党は、特別委に常時出席する閣僚を増やすよう求めたが、結論は出なかった。

自民党は委員選びに当たり、江渡氏以外にも、集団的自衛権の与党協議に携わった岩屋毅氏や、防衛副長官を務めた今津寛氏をはじめ、安保政策に精通した国防族議員を多数起用した。

民主党は、安保政策をめぐる党内対立を踏まえた人選となった。集団的自衛権の行使容認に前向きな長島

昭久元防衛副大臣を選ぶ一

方、社民党出身で反対派の

辻元清美氏も起用。党内パ

ランスに腐心した人事につ

いて、「国会論戦を通じ、

民主党内の『内輪もめ』が

露呈するかもしれない（自

民党幹部）との声もある。

維新の党の下地氏は22日

の党代議士会で、「（自民と

民主両党の）二者（だけ）で

話をすることは絶対ない」

と述べ、委員会運営が自民、

民主主導にならないよう、

けん制した。共産党は志位

委員長が自ら委員となり、

政府側との論戦に挑む。